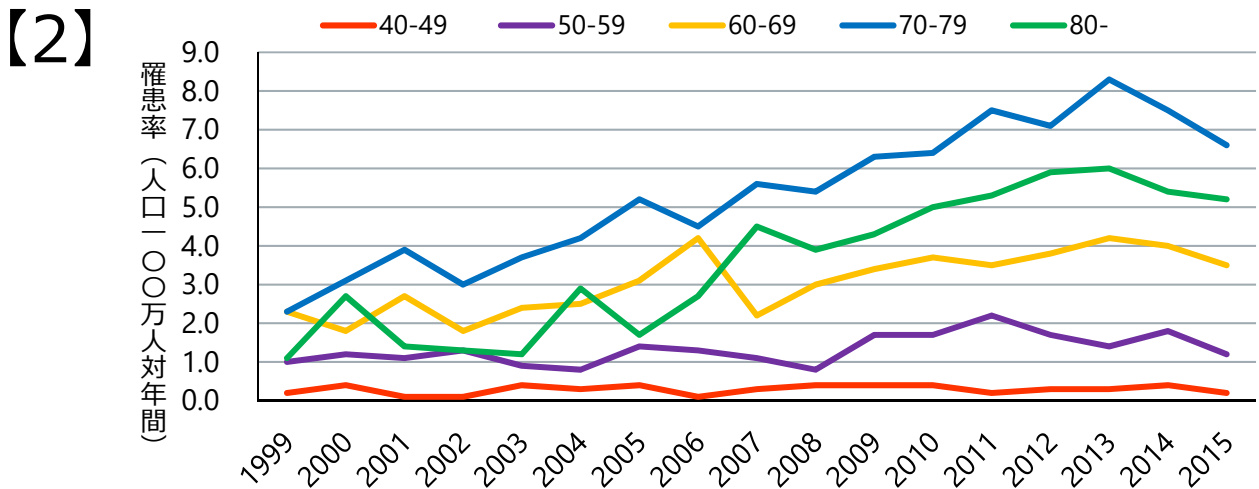
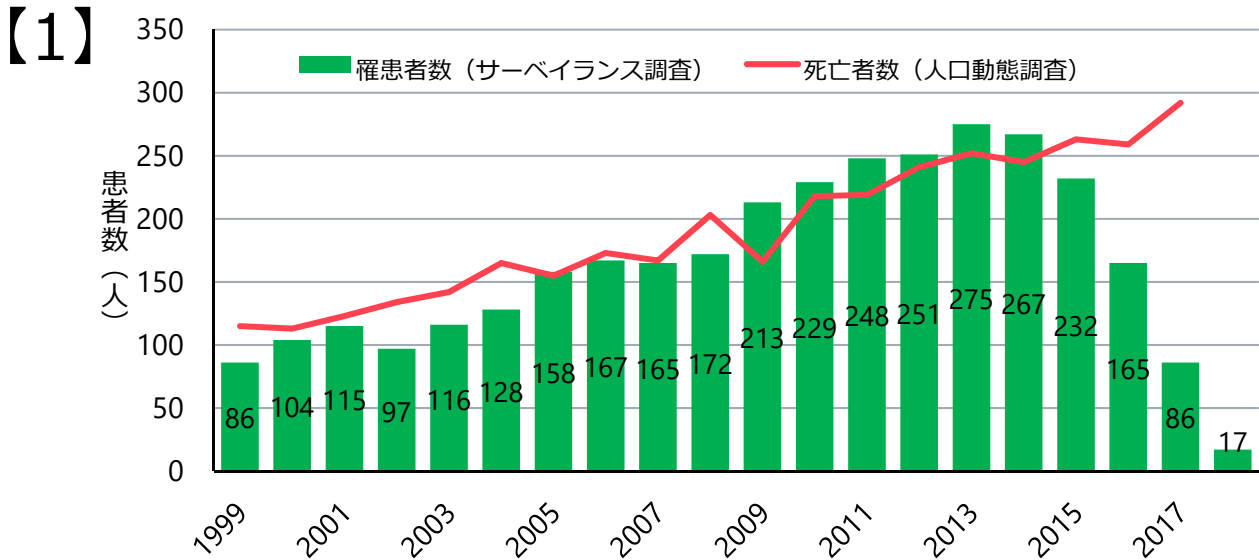


サーベイランスデータに基づくわが国のプリオン病の疫学像 (1999-2018年データ)

研究分担者: 自治医科大学地域医療学センター公衆衛生学部門 中村 好一



解 説

1. 発病者数と死亡者数の年次推移: 2005年頃から発病者数と死亡者数のギャップが小さくなってきており, この傾向は, サーベイランスの患者捕捉率が近年上昇してきていることを示している. 担当医から適切に患者情報がCJDサーベイランス委員会に提供され, 正確にプリオン病と診断されるようになってきていることがうかがえる.
2. 年齢階級別罹患率の推移: 40歳代と50歳代の年齢層では罹患率がおおむね横ばいなのに対し, それより高い年齢層(60歳代, 70歳代, 80歳以上)では上昇する傾向が見られた.